

次の文章を要約し、次に要約をふまえてあなたの意見を書きなさい。要約と意見は、それぞれ 400 字以内にまとめなさい。

注¹ 上げ馬神事は、陣笠に注²袴姿の若者を乗せた馬が急坂を一気に駆け上がった後、頂上で高さ約 2 メートルの壁越えに挑み、成功した回数で作物の豊凶を占う。700 年近く前の南北朝時代に始まったとされ、県無形民俗文化財に指定されている。

神事に使う馬は、最近では仲介業者から買ったり借りたりすることが多いが、かつては地元で飼われていた農耕馬を走らせていたという。

1990 年代後半から、関係者が馬をたたいたり蹴ったりしたことが問題視され、再三、動物愛護団体の抗議を受けていた。

昨年 5 月、4 年ぶりに行われた神事で、馬 1 頭が坂の途中で転倒して骨折、殺処分された。関係者が馬をたたくなどの威嚇行為も確認された。

「馬の命を使い捨てにするな」「天罰が下れ」。そうした抗議が、多度大社側に殺到した。県にも神事の廃止などを求める 5 万筆以上のオンライン署名が提出された。一見勝之三重県知事は、過去 15 年間で計 4 頭が殺処分された事実を問題視し、改善を求める考えを示した。県教育委員会も、県文化財保護条例に基づき、神事の改善を勧告した。勧告は 11 年に続き 2 回目だった。神事から約 5 か月後、動物愛護団体「PEACE」（東京都豊島区）は、多度大社側を動物愛護法違反容疑で刑事告発した。団体の代表は「神事や伝統行事の名を借りた動物虐待行為を終わらせるために告発した」としている。

神事の改善を迫られた大社側は当初、「壁の高さを半分にする」など伝統部分を残す見直し案を県に提出した。しかし、世間の批判はおさまらなかった。大社側は、動物福祉の専門家を交えた検討会を昨年 10 月から計 3 回開催した。

専門家の意見は、「壁を駆け上がる」という伝統に対して厳しい内容となった。「人馬ともに危険」「馬を威嚇したり、興奮させたりする行為がゼロにならない」と弊害を指摘。動物福祉に配慮した祭りにするためには「壁の撤去が必要」と提言された。

各自治会の話し合いでは「壁がなくなっては面白くない」との意見も出たが、「神事を継承していく」ことを最優先し、提言を受け入れた。今年 2 月、大社側は、壁の撤去を柱とした見直し方針を公表した。平野直裕権宮司は「今までの神事の運営を見直し、時代に合った神事に改革しなければならない」、神事を執り行う御厨（みくりや）総代会の伊藤善千代会長も「勇壮な祭りから時代に即した人馬一体の奉納行事に変えていく」と述べ、神事の「変革」を強調した。

5 月、壁を撤去して初めて行われた神事では、若者 3 人が計 6 頭の馬に騎乗し、坂を駆け上がった。2 日目に落馬があったが、人馬ともけがはなく、虐待行為もみられなかった。観光客からは「安心して見られた」との声があった。

一方、地元住民は「迫力がなくなった」「伝統が途絶えた感じがする」と話した。

一方、動物愛護団体のメンバーたちは「馬の利用を廃止せよ」などのプラカードを掲げ、抗議活動を行った。団体と地元関係者が一時もみ合いになりそうな一幕もあった。

（2024 年 5 月 25 日 読売新聞朝刊による。一部改変）

注 1 上げ馬神事…三重県桑名市の多度（たど）大社の例祭「多度祭」の神事。

注 2 陣笠…武士が軍陣で兜（かぶと）の代わりにかぶった笠。

注 3 袴（かみしも）…江戸時代の礼装

注 4 権宮司（ごんぐうじ）…神社の長である宮司を助ける神職。